

## ミドルベリー大学日本語夏学校『茶道クラブ』と 日本研究センターレギュラーコース『茶道クラブ』

結城 佐織<sup>1</sup>

### 【要旨】

2016年ミドルベリー大学日本語夏学校<sup>2</sup>において茶道クラブを担当した。ミドルベリー大学日本語夏学校では日本文化の体験、日本語での受講という日本語教育的な側面に注目している。

結城 (2016) では、2015-16年度のアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターのレギュラーコースの4学期に全8回行った茶道クラブの報告をした。2016-17年度は3学期から行っているため、全15回となった。3学期は盆略点前を行い、ほぼ結城 (2016) の報告と同じであるため、本報告は4学期の盆点前習得以後を扱う。2016-17年度は活動日が増えたため、水屋の勉強や、茶道の趣向、花の「真・行・草」、禅や漢詩、日本史と茶道など、日本研究に関連した事柄に注目することができた。

### 【キーワード】

学校茶道、水屋、日本語教育としての茶道、日本研究、専門性

### 1 ミドルベリー大学日本語夏学校 茶道クラブ

2016年6-8月、筆者はミドルベリー大学日本語夏学校（以下ミドルベリー）において教鞭をとる機会があった<sup>3</sup>。ミドルベリーには複数のクラブが用意されており<sup>4</sup>、筆者は茶道クラブを担当した。

クラブは10名以内で、週一回の前半3週間、後半3週間でのべ6回行う。学生は前半・後半で同じクラブに入ることはできないため、学生が1つのクラブを体験できるのは3回である。このため、点前の習得はできないのでどのようにすればよいのかとミドルベリー側に尋ねたところ、ミドルベリーでは日本文化の体験、日本語での受講という日本語教育的な側面に注目しているとのことだった。茶道クラブである以上、点前の習得が一番だと思っていた筆者にとって、新たな発見であった。

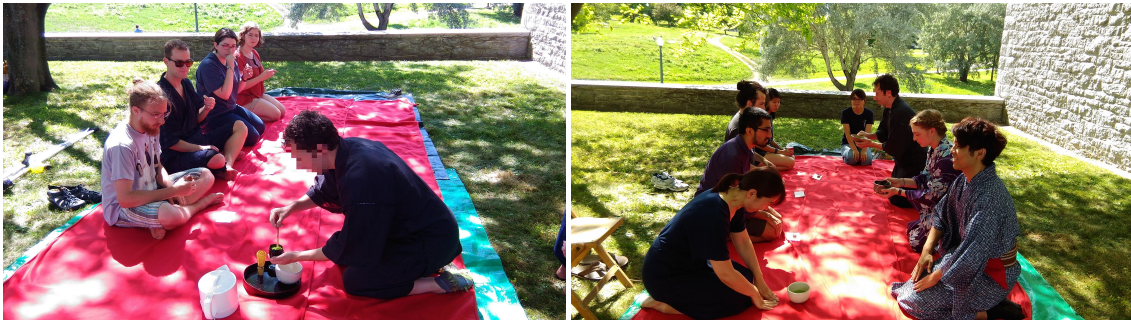
ミドルベリーでの活動内容は次の通りである。

- 第1回 挨拶の仕方、菓子の食べ方 プリント（茶道の日本語：資料1）
- 第2回 袱紗の捌き方、棗の清め方
- 第3回 茶杓の清め方

道具や菓子、抹茶など、必要なものはミドルベリーが用意してくれる。本物の袱紗を人数分は用意できないため、赤い布切れを袱紗の大きさに切り以前から代用している。茶道では「見立て」を行うが、これも外国で学ぶ知恵である。本物を使わなければならないと思っていた筆者の意識が変わった。

ミドルベリーでは前半に夏祭りを行う。夏祭りには色々な催し物があり、茶道クラブも呈茶を行った。2016年は30人分点てたのだが、近年にないほどの賑わいだったそうだ。僅か3回のクラブと、夏祭り向けの練習1回行っただけで、30人分の呈茶を4人程度でこなせるというのは素晴らしい。学生に感謝したい。夏祭りの様子はインターネットで公開されている<sup>5</sup>。茶道クラブの担当は香道の本を出版されていて茶道もなさっているアメリカのT大学のM先生と、茶道初体験のP大学のM先生と筆者だった。

ミドルベリー大学日本語夏学校 夏祭りでの茶道クラブ



## 2 日本研究センターレギュラーコース 茶道クラブ

2016-17年度は、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（以下センター）にて、2016年12月17日に説明会を行い、2017年1月20日から稽古を開始した。3学期は学生のCさんとDさんに加え、T先生も参加して下さった。4学期は、CさんとT先生の2名で行った。

3学期は盆略点前を行い、稽古内容は結城(2016)の報告にほぼ同じである。3学期に盆略点前を一通り行ったため、4学期から薄茶点前に入った。

### 2-1 薄茶点前

風炉の薄茶点前を行った。裏千家には数多くの点前があるが<sup>6</sup>、風炉の運びの薄茶点前は茶の湯の基本中の基本である。

薄茶点前には盆略にはない柄杓の扱い、拝見が有る。2016-17年度は時間の都合上、柄杓の扱い（持ち方、構え方、置柄杓、取柄杓）のみになり、引き柄杓と拝見までは進まなかった。また、棚点前もあるが、運びの点前のみとなった。しかしながら、薄茶点前での

置柄杓と取柄杓は、「奥儀」である真之行台子と同じ扱いであり、草（薄茶）の点前に真（真之行台子）の所作が入っていることなどを説明した。

## 2-2 活動内容

### 2-2-1 稽古内容

4学期の茶道クラブは毎週金曜日15時15分から16時半まで、22番教室で行った。以下は稽古内容の記録である。「\*」のある項目は、2-2-2で扱う水屋に関するものである。

- |     |       |   |
|-----|-------|---|
| 第1回 | 4月1日  | 盆略（前回までの復習）<br>茶席の会話  |
| 第2回 | 4月7日  | 盆略（前回までの復習）<br>茶席の会話（趣向）<br>型直し（基本の型、円、大木型）<br>*掛け軸の掛け方（矢筈）<br>*お茶の掃き方<br>プリント（掛け軸と花、季節と和歌：資料3） |
| 第3回 | 4月21日 | 盆略<br>茶席の会話（問答の仕方）<br>柄杓の扱い（持ち方、構え方、置柄杓、取柄杓）<br>プリント（柄杓の扱い）                                     |
| 第4回 | 5月12日 | 盆略<br>薄茶点前 前半（運び）<br>*水打ち<br>プリント（茶席の会話、花瓶：資料2）   |
| 第5回 | 5月19日 | 薄茶点前 後半（拝見なし）   |
| 第6回 | 5月26日 | 薄茶点前 通し（拝見なし）<br>楽茶碗の話<br>プリント（掛け軸：資料3）   |
| 第7回 | 6月2日  | 茶会形式で一服<br>客：学生3名（Hさん、Gさん、Tさん）  |
| 第8回 | 6月9日  | 卒業祝茶会（小林絃子先生、白菴茶室研究会の皆様とともに）<br>客：センターで希望した学生   |

2016-17年度は、3で述べる日本語教育としての茶道、日本研究者への茶道を念頭に7、

茶道に関する解説を試み、プリントを配布している（資料参照）。

## 2-2-2 水屋

水屋とは、茶の湯の準備をする場所でもあり、その仕事内容も指す。淡交社編集局編(1987)には「水屋は、水谷、水遣とも書きますが、その由来は、お寺の建物に付随し、仏前に供える器物の準備をしたり、また収めたりするところを水屋と呼んでいたことから聞いています。それに習い茶室にもこの字があてられたと思われます。また、『広辞苑』によりますと、「社寺で参詣人が手や顔を洗うために鉢を据えて水を湛え屋根などを設けた所。みたらし」とあり、水谷と書くこともあることから、身体に水を浴し、きよめる意味を含んでいるとも考えられます。（中略）裏千家咄々斎の大水屋に十三世圓能斎宗匠が「此所ハ則茶室ノ道場ナリ」と水屋訓を書かれています。水屋とは、茶道修練の第一の場所であり、茶事においては、茶室と一体のものであり、稽古においては道場となる場所なのです」(p.6)とある。

稽古を行うにあたり、準備は必要であるが、水屋というのは単なる準備ではない。道場の場であり、茶道の心得を習得する場なのである。通常、水屋というのは稽古をはじめとして、茶事、茶会を仕切らねばならず、点前の修練がある程度できた者が任される場であり、心得がなければならぬ。初心者はもちろん、数年稽古している者でも許しがなければ本来は学ぶことができない。

しかしながら、センターは最大十ヶ月の期間しかなく、日本研究の専門家を育成する場であるということから、茶道修練の第一の場所である水屋の一端を経験させるべきなのではないかという考えに至った。だが、時間の制限もありすべてを経験させることはできず、2015-16年度同様、畳拭き、洗い物、道具の基本の準備に加え、2016-17年度は水屋の仕事となる茶掃き、水打ち、軸掛けを教えた。

茶掃きとは、濾した抹茶を棗に入れ、形を整える作業である。茶席の最後に客に見せることもあり、美しく盛らなくてはならない。心を整えて行わなくては形が整わないため、修練が必要である。水打ちとは、生けた花にわずかに水を打ち、色、みずみずしさ、生命力などの生きとし生けるものの魅力を引き出すものである。花や花瓶の種類、生け方によっても打ち方を変えなければならない。また周囲に水が飛び散らないよう、布などで防御しながら行うなどの配慮も必要である。2016-17年度は、花入れも真・行・草を用意し Cさんに違いを説明したところ、次回から必ず今日の花入れは真・行・草のいずれでありどのように生ければよいのかという確認を受けるようになった。非常に意識が高く、吸収もよい。掛け軸は巻緒、巻紙、矢筈の扱い方を学び、矢筈を使用して軸をかける。この際、茶席での掛け軸の見え方はもちろん、軸の保護という点から自らの手油がつかないように日頃から細心の注意を払うという経験をする。センターには、美術や歴史を専門とする学生、将来美術館、博物館等で働くことを目指している学生がいるが、掛け軸を扱ったことがな

い場合が多いので、今後も取り入れて行きたい。

水屋とは、茶の湯を支える縁の下の仕事であり、真髄である。決して派手なものではなく客から見えない影の仕事であるが、それゆえ稽古の場となり、見られていなくとも美しい所作でそつなくこなしていくという心得がなければならない。実は日本研究者や日本文化の専門家であっても、この裏の大事さをわかっていないことがある。織田信長の御茶湯御政道は有名だが、裏で茶頭<sup>8</sup>が時の政権を左右し、日本史を動かしてきたことに関心のある人は少ない。表舞台だけでなく、裏方を学び身につけることにより日本文化の一端を経験でき、日本研究に役立つと筆者は考えている。

水打ち



軸を掛ける



### 2-2-3 茶会形式稽古と卒業祝茶会

千利休は茶の湯とは何かと訊ねられた際、「茶は服のよきように、炭は湯の沸くように、夏は涼しく冬は暖かに、花は野にあるように、刻限は早めに、降らずとも雨の用意、相客に心せよ」（利休七則）と答えている。これは、おいしいお茶を点て、本質を見極め、季節感を大切に、命を尊び、心に余裕をもち、臨機応変に対応し、互いに尊重し、楽しいひとときを過ごすことである<sup>9</sup>。

この心得を実践すべく、茶道クラブの最終日には茶会形式の稽古を行っており、2016-17年度も行うことができた。Cさんは水屋仕事を行い、点前をし、会話でもてなすことができた。

また2016-17年度は、書道クラブの講師である小林絢子先生と白菴茶室研究会の皆さま（12名）が6月9日（金）にセンターにて卒業祝の茶会を催してくださった。小林絢子先

生考案の流派を問わない娑婆罷<sup>10</sup> (写真の机と椅子) を使用し、希望するセンターの学生に薄茶を振舞ってくださった。この日は小林先生のご厚意により、茶道クラブのCさんも点前をさせていただけることになった。

以下は茶会形式稽古と卒業祝茶会の様子である。茶会形式稽古はセンターのフェイスブックでも紹介されているので、参照されたい。

娑婆罷 (パンフレットより)

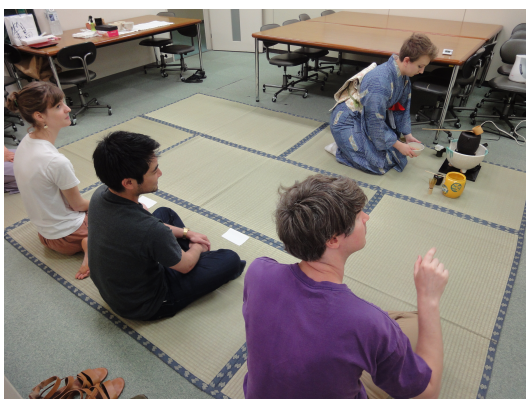


第7回 茶会形式稽古

風炉薄茶点前：Cさん

客：学生 Hさん、Gさん、Tさん

講師：筆者



卒業祝茶会

薄茶点前：Cさん

客：学生 Lさん、Wさん、

Kさん (白菴茶室研究会)

主催：小林絃子先生



### 3 日本語教育としての茶道、日本研究者への茶道

近年、英語教育において内容言語統合型学習 (CLIL) が注目を浴びているが、センターでは専門教育と日本語教育を結びつけた人材育成を長年行ってきた<sup>11</sup>。筆者は日本語教育

としての学校茶道という観点から、センターの茶道クラブも CLIL の活動になる可能性があるのではないかと模索している。茶道の習得は主に、実技、精神、歴史、交流の4つの分野に分類でき、茶道に必要な日本語力は三つに大別される。一つ目は実技である点前を覚えるための日本語、二つ目は精神、歴史を学ぶための日本語、三つ目は交流の際に必要な日本語である。一つ目と二つ目については後に譲り<sup>12</sup>、本稿では三つ目の交流の際に必要な日本語について述べたい。

2-2-3 で述べたが、茶道では相客に心せねばならない。一言一句もらさない茶席もあるが、薄茶席は基本的に亭主、連客ともにリラックスし、会話を楽しむ席でもある。一般的に薄茶席では、いわゆる教養のある会話が求められる。

点前をしながら亭主、客ともども会話をしなさいと学生に言うと、まず「おいしい」「良い香り」「良いお天気ですね」などという言葉がでる。これは最も大事なことではあるが、これだけでは不十分である。茶席では、道具から亭主の趣向を読み取り、会話を広げていく必要がある。例えば、掛け軸が禅語ならば、禅と思想の話をし、黒楽茶碗が出ていた場合、そこに利休と秀吉の関係を見出し、日本史と美意識、人間の価値観について話をするなど、ある種の教養連想ゲームである。これには幅広い一般教養が求められ、日本人にとっても難しい。

しかしながら、日本研究の専門家を目指すセンターの学生にとっては、ある意味敷居が低いといえる。日本文化、中国文化が専門の学生は言うまでもないが<sup>13</sup>、美術の学生は茶道具全般について語れる。歴史の学生は武将や日本史と茶道について思いを巡らせることができる。宗教や哲学の学生は禅語の掛け軸をきっかけに精神・宗教論につなげることができる。文学の学生は茶事の趣向に頻繁に使われる源氏物語、伊勢物語はもちろんのこと、正岡子規や谷崎潤一郎などの作品に出てくる茶道<sup>14</sup>について話すことができる。経済や政治の学生は原三溪<sup>15</sup>、益田鈍翁など日本の財閥と政治、近代の数奇屋茶事の関係などに連想を膨らませることができる。このように己の専門に絡めた茶席の会話ができるのである。実際に2016-17年度は、Cさん自ら掛け軸の意味の説明を説明してくれた。また、真・行・草は茶道のどこに体现されているのか、陰陽の意味はどのようなものなのか、和三盆の作り方を実際に見てきたが自分で作れるのか、黒楽茶碗は利休とどのような関係にあるのか、などについて聞かれた。Dさんからは禅と宗教、茶道の関係について話してほしいという要望があり、更に茶道史と日本史、美術史の歴史的な関係にも興味があるということで、稽古中に意見を交わした。Cさん、Dさんともに非常に有意味な会話内容であり、専門性を生かした教養ある日本語の会話が出来つつあるといえる。

上述のように茶道クラブ中に教養を深める機会を持つことは出来たが、点前を覚えながらというのはなかなか難しいため、2016-17年度は日本語教育としての茶道、日本研究者への茶道ということを意識し、教養や日本語に関するプリントを配布することにした。研究でも、議論でも、授業でもない場において、己の専門をコミュニケーションの道具とし

で日本語で円滑に運用できるのが理想である。時間の制約もあり、解説がわずかな時間と  
なってしまったのが今後の改善点である。

茶道には日本の伝統や文化、歴史が凝縮されている。センターの学生には教養ある日本  
研究者として茶席の会話の達人になってほしいと願う。今後茶道クラブは、各自の専門を  
活かした日本語・日本研究の実践の場になることを目指していきたい。

## おわりに

2016-17 年度はミドルベリー大学日本語夏学校とアメリカ・カナダ大学連合日本研究セ  
ンターにて茶道クラブを行うことができた。

アメリカの地での経験では日本語教育における茶道についての考えを改め、センターで  
は日本研究者への茶道について考える良い機会となった。今後も希望者がいればセンター  
にて茶道クラブを続け、受講者の日本研究と日本理解、日本語学習に役立つ実践の場にな  
れば幸いである。

## 謝辞

ミドルベリー大学日本語夏学校 (2016) の校長でもあるパデュー大学の畑佐一味教授に  
は、茶道クラブと本稿執筆のために御尽力をいただいた。小林紘子先生には、卒業祝茶会  
の際に茶道クラブの学生を点前に加えていただいた。裏千家の秋山宗智準教授には、ミド  
ルベリー大学日本語夏学校と日本研究センターレギュラーコースの茶道クラブのために御  
協力いただいた。三名の先生方にはこの場を借りて御礼申し上げる。

## 注

- 1 アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター講師 (アメリカ・カナダ大学連合日本研  
究センターホームページ参照)。裏千家茶道専任講師、裏千家淡交会所属。裏千家学  
校茶道指導者。裏千家茶道秋山宗智準教授清々会本部所属。2017年7月20-22日に行  
われた「学校茶道指導者講習会 学校茶道担当者講習会 合同研修会」に参加 (裏千  
家ホームページ参照)。
- 2 ミドルベリー日本語夏学校ホームページ参照。
- 3 センターとミドルベリー大学日本語夏学校は以前より交流があり、現在のセンターの  
専任はミドルベリーで1回以上教鞭をとっている。交流期間中はアメリカで教える日  
本語教師との交流やアメリカ・カナダの日本語教育事情、日本の日本語教育事情、学  
生の傾向などの情報交換も行える。
- 4 ミドルベリー大学日本語夏学校ホームページ「夏学校のクラブ」を参照。



- 5 ミドルベリー大学日本語夏学校 youtube「2016年夏祭り」を参照。
- 6 裏千家ホームページ「修道のご案内」を参照。
- 7 この点においては、結城 (2016) の査読の際に松本隆先生にアドバイスをいただいた。
- 8 亭主に代わり茶会の運営・進行に携わった人。またその役。茶頭の基礎資格は、茶の湯に精通したものならば武将・茶匠は問われなかった。谷端 (2007) 参考。
- 9 裏千家ホームページを参考。
- 10 婆娑罷 basara 茶席は、これまでの立礼席とは異なり亭主自ら客に茶を振る舞い、主客とも椅子座・星座と同じ感覚で茶の湯を楽しめます (パンフレットより)
- 11 IUC (The Inter-University Center for Japanese Language Studies) ホームページ「IUC 50th Anniversary」を参照。
- 12 第五回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム (2017年8月18-20日、中国) において発表予定である。
- 13 神津 (2012)、関根 (2016) 参照。
- 14 石塚 (2016) 参照。
- 15 センターの近くには横浜市指定有形文化財である三溪園があり、校外学習で行くことがある。三溪園のホームページを参照のこと。

#### 参考文献

- 池田真琴 (2013)「上智大学の実践 「内容言語統合型学習 (CLIL) が切り拓く大学英語教育の可能性」 Forum of Language Instructors, 8 pp.59-68、金沢大学学術情報リポジトリ。
- 石塚修 (2016)『茶の湯ブンガク講座 一近松・芭蕉から漱石・谷崎まで一』淡交社。
- 神津朝夫 (2012)『茶の湯と日本文化』淡交社。
- 関根宗中 (2016)『茶道と中国文化』淡交社。
- 谷端昭夫 (2007)『よくわかる茶道の歴史』p.94、株式会社淡交社。
- 淡交社編集局編 (1987)『茶の湯実践講座 水屋の心得』株式会社淡交社。
- 結城佐織 (2016)「夏期コース『茶道体験』と年間コース『茶道クラブ』」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第5号。

#### ホームページ等

- IUC ホームページ (2017年7月16日現在) 「IUC 50th Anniversary」、スタンフォード大学  
<https://web.stanford.edu/dept/IUC/cgi-bin/news/anniversary.php>
- アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターホームページ (2017年7月16日現在)  
<http://www.iucjapan.org/index.html>

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターフェイスブック (2017年7月16日現在)

<https://www.facebook.com/IUCJapan/?fref=ts>

裏千家茶道教室さくらの会ホームページ (2017年7月16日現在)

<https://sakuracha.jimdo.com/>

裏千家ホームページ (2017年7月16日現在) 「修道のご案内」

<http://www.urasenke.or.jp/textb/culic/index.html>

裏千家ホームページ (2017年7月16日現在) 「第48回学校茶道指導者研修会 第38回  
学校茶道担当者講習会 合同研修会」

<http://www.urasenke.or.jp/textm/headq/recruit/gakucha/godo/godo.html>

NHK オンライン (2017年7月16日現在) 「解説委員室」、「視点・論点 『桜と恋』」

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/213427.html>

三溪園ホームページ (2017年7月16日現在)

<http://www.sankeien.or.jp/>

ミドルベリー日本語夏学校ホームページ (2017年7月16日現在) 「夏学校のクラブ」

[http://www.middlebury.edu/ls/japanese/in\\_language/Activities](http://www.middlebury.edu/ls/japanese/in_language/Activities)

ミドルベリー日本語夏学校 youtube (2017年7月16日現在) 「2016年夏祭り」

<https://www.youtube.com/watch?v=cjLQxgwPZp8&t=242s>

## 配布資料

資料1はミドルベリー大学日本語学校で配布した資料である。掲載の都合上、漢字の振り仮名の一部を消し、文字の大きさを変え、写真を差し替えてある。資料2と資料3は日本研究センターで配布した資料の一部である。資料2と資料3に関しては、配布時は縦書きであったが、掲載のため文字のサイズを変更する、横書きにするなどの編集を加えている。

### 資料1：ミドルベリー大学日本語夏学校配布資料（茶道の日本語）

#### 茶道の日本語

##### 【道具 どうぐ】



茶碗 ちゃわん  
茶を飲むための器（tea bowl）です。



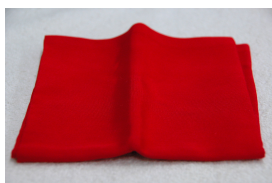
棗 なつめ  
抹茶を入れる（put）ものです。絵を蒔絵と言います。



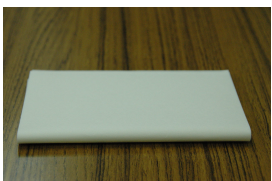
茶杓 ちゃしゃく  
抹茶をすくう（scoop）ものです。竹が多いです。



茶筌 ちゃせん  
抹茶をたてる（make）ものです。竹でできています。



袱紗／帛紗 ふくさ  
道具を清めたりする時に使います。



懐紙 かいし  
お菓子を乗せる紙です。  
他にもいろいろな使い方があります。

【盆略点前 ぼんりゃくでまえ】

Simplified tea-making procedure using a tray. Also called *bonryakudemae*. A method devised by Ennosai (Urasenke VIII), and unique to Urasenke. It is considered suitable for those who have mastered *warigeiko* to learn this procedure next. It is a simple way of making thin tea (*usucha*) by using a tray on which are arranged the container for tea powder and the tea bowl prepared with linen wiping cloth (*chakin*), tea whisk (*chasen*), and tea scoop (*chashaku*).



引用：裏千家茶道教室さくらの会ホームページ

【飲むときや食するときのあいさつ】

- ・お先に（おさきに） = 先に飲ます／先に食べます
- ・お相伴（おしょうばん）いただきます = いっしょに飲みます
- ・お点前頂戴（おてまえ ちょうだい）いただきます = いただきます

【ことば】

- ・手をつく = 手を畳につけること
- ・客／お客さん = 茶を飲む人
- ・お点前／お点前さん = 茶をいれる人
- ・薄茶／お薄 = お茶のいれ方の種類（他に濃茶がある）
- ・点てる = お茶をいれること
- ・清める = 道具をきれいにすること
- ・畳む = 小さく折ること
- ・（茶碗を）回す = （茶碗を）右や左に進めること
- ・拝見する = （道具を）見ること

資料2：日本研究センター配布資料（茶席の会話）

茶席の会話

【会話の内容】

- ・ 季節
- ・ 道具
- ・ 趣向（しゅこう）：茶席のテーマ

など

【道具】

- ・ 掛け軸 本席の掛物は  
軸のお読み上げを  
筆は：書いた人
- ・ お香 お香は
- ・ 花入れ 作は：作った人の名前
- ・ 茶碗 銘は：茶碗の名前  
作は

など

- ・ 抹茶 詰は：製造元  
銘は
- ・ 菓子 製は：製造元

資料3：日本研究センター配布資料（道具など）

【掛け軸】 画賛

河野大通 筆

晴れてよし 曇りてもよし 富士の山  
もとの姿は かわらざるなり

山岡鉄舟

- ・ 河野大通（こうの だいつう）  
第三十三代 臨濟宗 妙心寺派
- ・ 山岡鉄舟（やまおか てしゅう）  
幕末から明治時代の幕臣、政治家、思想家。  
江戸百万人の命を救う「江戸城無血開場」を西郷隆盛に訴えた人物。

勝海舟、山岡鉄舟、高橋泥舟で、幕末の三舟と呼ばれる。

【菓子】

銘 花びら餅

製 鶴屋八幡 (つるやはちまん)

・花びら餅

宮中の正月の行事食、「菱葩（ひしはなびら）」を原形とするお菓子。

正月の伝統の御菓子の一つ。白あんとごぼうが包まれている。

柔らかくしたふごぼうは、鮎に見立てたもの。

裏千家の初釜に用いられる菓子。

二月

【掛け軸】 一行物

春水濁四澤

陶淵明

永井櫻舟 筆

佳泉書道会主宰

陶淵明（とうえんめい）の「四時歌」の起句。

起句	きく	春水満四澤（しゅんすいしたくにみち）
承句	しょうく	夏雲奇峰多（かうんきほうおおし）
転句	てんく	秋月揚明輝（しゅうげつめいきをあげ）
結句	けっく	冬嶺秀孤松（とうれいこしょうひいず）

四月

【掛け軸】 一行物

和敬清寂

薬師禅院 吉野玄輝

この4つの文字の中には、すべてのお茶の心がこめられているといわれています。

「和」とは、お互いに心を開いて仲良くするということです。

「敬」とは、尊敬の敬で、お互いに敬いあうという意味です。

「清」とは、清らかという意味ですが、目に見えるだけの清らかさではなく、

心の中も清らかであるということです。

「寂」とは、どんなときにも動じない心です。

お茶を飲むとき、お点前をするとき、また、お客様になったとき、お招きしたときなどに、この「和敬清寂」ということばを思い出し、おけいこに励みましょう。

(裏千家ホームページより)

【花】 山桜

もろともに あはれと思へ 山桜 (やまざくら)

花より外 (ほか) に 知る人もなし

前大僧正行尊 (66 番) 『金葉集』 雑・556

俗世間を離れ厳しい修行を積んだ僧の一首。

もろともにというのは、いっしょにということで、もろともに思うというのは、思い合うということですね。わたしが山桜をあわれに思うように、山桜よ、おまえもわたしにあわれをかけてくれ。つまり、ここでもう、桜を一方向的に風景として見ているわけではないことがわかります。桜との交流を願っている。これはちょっと異様なこと、この歌に特徴的なことではないでしょうか。

下の句ですが、「花よりほかに知る人もなし」、花よりほかに私の心を知る人はいない、と同時に、わたしのほうも花よりほかに知っている人がいないというふうには、主語を二重にとり、ここでもまた、交流的に読んでみるのはどうでしょう。

(NHK オンラインより)